

公益財団法人

京都府国際センター

Kyoto Prefectural International Center

NEWS

Vol. 83

2017年 秋号

京都府国際センターの取り組み紹介

多文化共生社会と日本語教室

「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか？総務省は平成18年の「多文化共生の推進に関する研究会報告書」の中で「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義しています。報告書が出された背景には、今後、日本では、長期的に少子高齢化と人口減少が進む一方、国内外の様々な事情により外国人住民の更なる増加と定住化が予想されるということがあります。そのような中、様々な文化・言語的背景を持った人々が共に暮らすために、私達は、知恵を出し合い、それを実現していくことが求められています。

外国人住民が日本で生活する上で、まず乗り越えなければならないのが言葉の壁です。多言語化は進んでいますが、ほと

んど外国人住民にとってコミュニケーションに必要な日本語の習得は必須と言えます。日本語ができなければ、公共サービスや、地域で生活する上で必要な情報が得られない場合があり、公共交通、仕事、教育、病院、警察でのやり取りや災害時の対応に支障をきたす場面が多々あります。地域社会としても、言葉の壁を取り除き、外国人住民が孤立することなく暮らしていけるようになれば、多様性のある魅力的なまちづくりを行っていくことができるでしょう。このような多文化共生社会の実現のために大きな役割を果たしているのが地域の日本語教室です。

日本語教室は「多文化共生の入り口」とも言われるように、外国人住民にとって日本語能力獲得の場であるだけでなく、授業の中で、日本人や他の学習者から、日本の文化や地域社会の

ルールを学習し、どのように日本で暮らしていけばいいのかを学ぶ場でもあります。日本人住民から見れば、学習者と接することを通じて異文化に対する理解が深まる場であるということもできます。

京都府国際センターでは、国や地方自治体、国際交流協会、地域の日本語教室などと連携をして、日本語学習支援に取り組むことで多文化共生の地域づくりを進めています。

目次

- 京都府国際センターの取り組み紹介 多文化共生と日本語教室…… 1
- 多文化共生社会に向けた取り組み 多文化社会共生の拠点となる 日本語教室を目指して…… 2
- 日本語教室「空白地域」の解消に向けて…… 2～3
- 新任国際交流員のご挨拶…… 4

京都府国際センター
日本語教室の様子



多文化共生社会に向けた取り組み

多文化共生社会の拠点となる日本語教室を目指して ～熊本地震の経験から～

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

村上 百合香

2016年4月、熊本県を未曾有の大地震が襲いました。県内在住外国人の半数近い約5,000人が暮らす熊本市でも震度6強を観測、当事業団（以下KIF）は外国人避難対応施設を開設し、運営に追われました。当時、KIFでは市内中央、東、北の3区で地域日本語教室を運営、参加者は外国人（学習者）・日本人（ボランティア）を合わせると160名を超えました。地震後、参加者との連絡を試みましたが、学習者の中には県外へ避難した人や一時帰国した人も多く、安否確認は困難を極めました。

経験したことのない混乱が続く中、母国で地震体験がない多くの学習者を最も近くで支えたのは、各日本語教室で築かれた日頃の“つながり”でした。例えば、北区の教室では、「避難所はどこ？」「菊陽町役場で、水がもらえます。」「みなさん、力を合わせてがんばりましょう！」等参加者同士が作ったLINEグループで励まし合いました。食べ物が手に入るお店、近くの温泉や給水所等の情報を交

換したり、お互いに地域の情報を集め、必要に応じて多言語化し、助け合って非常時を乗り越えました。学習者の中には、地震後に連絡がとれなかった一人暮らしのボランティアの自宅を直接訪れ、安否確認を行った人もいました。まさに、教室で生まれた“つながり”が、セーフティネットの役割を果たした瞬間でした。

KIFでは文化庁のスタートアッププログラムを活用し、震災で教室が閉鎖になり空白地域となった東区の教室再開に取り組んでいます。前述の震災中の経験より地域日本語教室を多文化共生社会の拠点と位置づけ、同じ地域に住む外国人・日本人住民が集い、交流を深め支え合う関係づくりを目的にしました。今年6月から本格始動した教室活動では、暮らしに密着したテーマでおしゃべり活動を行っています。今後は、このような日本語教室を空白地域である西区・南区にも開設し、「誰一人置き去りにしない社会」の構築を目指しています。



東区くらしのほんごくらぶ（熊本市）



日本語教室「空白地域」の解消に向けて

国内では現在、日本語教室が開設されている自治体は全体の約3分の1で、日本語教育が実施されていない自治体に居住している外国人は約55万人とされています。京都府内でも半数の13の自治体で約20の日本語教室が開催されていますが、残りの自治体は日本語教室がない「空白地域」という状況です。

国際センターでは早くから空白地域の解消のため、人材の養成や日本語教室のネットワークの構築などを進めてきて

おり、現在までに京丹後市、城陽市、南丹市、亀岡市、京丹波町、福知山市における教室の開設に結びつけてきました。

今年度は舞鶴市において6月～8月にかけて「日本語支援ボランティア養成講座」を実施し、日本語教室開設にむけた人材養成のための講座を開催しました。

講師はこれまでも養成講座や研修会などを協働実施している、府内日本語教室のネットワーク組織である「京都にほんごRings」に務めていただき、グループワークや模擬授

業など参加型で初めての方にもわかりやすい内容の講座を提供しました。

全5回の講座には約30名の参加者があり、毎回積極的な姿勢で取り組まれていました。講座が終了した現在は参加者間で舞鶴市における日本語教室の開設に向けた話し合いが持たれているところです。

また、空白地域の解消には国としても取り組んでおり、平成28年度から文化庁が「地域日本語教育スタートアッププログラム」を実施しています。

昨年、当センターが養成講座を実施した福知山市はこのプログラムを活用した日本語教室の開設に取り組んでおり、現在は試行的に教室を開催しています。

日本語教室は日本語を学ぶ場所であるだけでなく、学習者が支援者である日本人や他の学習者となつながりを持つ地域社会との貴重な接点であり、一つのコミュニティやセーフティーネットとしての大きな役割を担っていますので、今後も府内の空白地域解消に向けて各自治体と協働して取り組みを進めていきたいと考えています。

府内の日本語教室については下記の「京都にほんご教室マップ」をご覧ください。

※国際センターでマップの配布もしています。

<https://www.kpic.or.jp/njfumin/nihongo/kyoshitsumap.html>



日本語支援ボランティア養成講座（舞鶴市）

地域日本語教育スタートアッププログラム

文化庁が行っている事業で、日本語教室が開設されていない地域に住む外国人住民に日本語を学ぶ機会を提供するよう教室の開設を希望する自治体に対し、地域日本語教育の専門家を派遣することにより、教室の開設を支援するもの。現在までに福知山市をはじめ12の自治体が採択され、各地で教室開設に向けた取り組みが進められている。

http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/index.html

日本語教室関連イベント

入場無料 申込不要

福知山市では今年度文化庁の「地域日本語教育スタートアッププログラム」に採択され、日本語教室の開設に取り組んでいます。その一環として、日本語教育や多文化共生への理解を深めるための多文化共生推進講演会が開催されます。

多文化共生推進講演会
～地域ぐるみの多文化共生～
「多文化共生と地域の未来」

講師：西原 鈴子氏

（独）国際交流基金日本語国際センター所長
文化審議会会長などを歴任。）

日時：平成29年11月19日（日）
午後1時30分～午後3時00分

場所：福知山公立大学4号館1 101号室

主催：福知山市

共催：福知山公立大学・福知山市国際交流ネットワーク会議

問合せ：福知山市まちづくり観光課地域振興係 TEL：0773-24-7076

京都府国際交流員着任のご挨拶

国際交流員 マヤ・ホールさん(イギリス)が着任しました。



みなさん、こんにちは。京都府庁国際課の国際交流員マヤ・ホールです。私はイギリスと日本のハーフで、ドイツの西にあるボンという小さな町で生まれました。京都がそうであったように、ボンは昔西ドイツの首都でした(1949-1990年)。日本でも有名な交響曲第9番を作ったベートーベンが生まれた町です。都心にはベートーベンの生まれた家がまだ残っているので、興味がある人は是非見に行ってください!

私は子供のころ、両親の仕事のため、日本とシンガポールと香港に住んでいて、高校生になってから、イングランド南部のロンドンとケンブリッジの真ん中にあるビショップス ストードフォート

というところの高校の寮で暮らしていました。その後、スコットランドのエジンバラ大学で言語学と日本語を勉強し、その間慶応大学に交換留学生として留学し、一年間東京にも住んでいました。大学は今年の7月に卒業して、その後すぐ京都に引っ越してきました!

小さい頃は毎年東京に行っていましたが、京都に住むのは初めてです。私は日本が大好きで、京都のように素敵な歴史ある町の文化に触れるのをほんとうに楽しみにしています。(スコットランドよりもずっと暖かいし...) 京都がどのように混然一体とした大切な歴史や伝統と、世界でも有名な日本の技術のバランスを保っているかが毎日はっきりわかるようになってきて、私はこのような町はとてめめずらしいと思います。

私はヨーロッパ、特にイングランドやスコットランド、または英語に興味がある日本のみなさんと文化や言語交流をさせていただくことを楽しみにしています。大人向けでも子供向けでも国際的なことの紹介はできますので、ご依頼をいつでもお待ちしております。

京都府国際センターからのお知らせ

無料

要申込(定員50名)

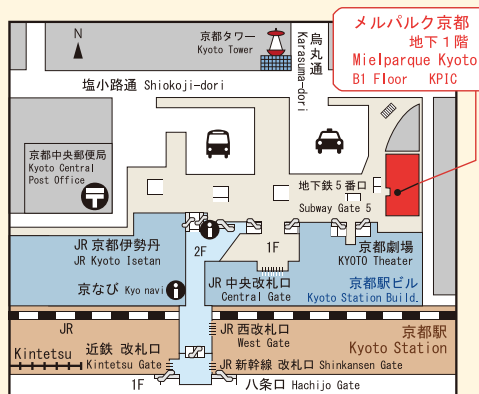
平成29年度 国際理解白熱教室 ～多文化共生と地域創生～ (3回連続講義 第2回)

講師：立命館大学大学院法務研究科 特別任用教授
立命館大学 名誉教授 薬師寺 公夫氏

テーマ：留学生のグローバル人材への成長
ー多様な思考と多言語運用能力に期待するー

日時：平成29年12月2日(土) 14時30分～16時30分
場所：立命館大学朱雀キャンパス法務研究科教室301号
申込み：FAX、Eメール、ホームページからお申し込みください。電話ではお申し込みいただけません。

➡ 詳しくは、<https://www.kpic.or.jp/>



公益財団法人 京都府国際センター

〒600-8216 京都市下京区東塩小路町676-13 メルパルク京都B1F(JR京都駅前 北口東側(京都劇場側))

Tel : 075-342-5000

Fax : 075-342-5050 E-mail: main@kpic.or.jp

<http://www.kpic.or.jp/>

facebook <http://www.facebook.com/kpic.kyoto>

開館時間 / 午前10時～午後6時

休館日 / 毎月第2・第4火曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

公益財団法人 京都府国際センター NEWS Autumn 2017 平成29年秋号 第83号
編集・発行 / 公益財団法人 京都府国際センター Kyoto Prefectural International Center

